

島よ輝け 初めての「祭り」



「らっしやいませー!」。
抜けるような青空が広が
った2025年11月下
旬、松山市の興居島の由良公民館で

「いごしま島ごとこども祭り」が初
めて開かれた。約半年かけてNPO
いごしまキッズクラブの小中学生リ
ーダー3人が中心となり準備した、
子どもが主役のイベントだ。

会場には島内外から約100人が
訪れ大盛況。リーダーで興居島中学
校2年山中友樹さん(14)、1年今井
陽菜さん(13)、興居島小学校5年林
遼さん(11)は、忙しく動き回りなが
らそれぞれの役割を果たした。

3人の挑戦は資金集めから始まっ
た。若者からまちづくりのアイデア
を募り、市が活動費を助成する制度
に応募。7月のプレゼンテーション
では、自分たちで考えた台本で島の
現状を伝える劇を披露した。山中
さんは「祭りを開くためには、プレ
ゼンに合格しなければならず緊張し
た。練習の成果を出せて一番に残
っている」と振り返る。

採択後は今井さんがチラシを手
作りしたり、みんなで運営方法や
役割分担を話し合ったりと、準備を
重ねた。林さんは「陽菜さんはプレ
ゼンで上手にしゃべり、チラシ

資金集めや運営に奮闘

祭りでは準備から片付けまで子ども
たちが主体的に関わった。2025
年11月下旬、松山市由良町



もあつという間に作る。友樹さん
は話し合いでたくさん案を出して、
2人とも本当に「すごい」と頼りにす
る。

迎えた本番は午前9時半スター
ト。前日から準備したヨーヨーやく
じ引きは昼ごろにはなくなる人気が
ぶり。スーパースポーツでは小さ
い子どもに破れにくいボールを渡し
「持って帰れるのは〇個まで」とル
ールを決めて運営。小学2、3年の
7人もスタッフに加わり、接客や準

備、片付けに精を出した。

3人の奮闘に込めるように大人も
腕まくり。松長歩さん(34)は、依頼
を受けて木製の手作りピンボールを
制作した。ボールがポイントを通過
すると、パソコンのルーレットが回
って点数が入る仕組みで、多くの子
どもが夢中になった。

計画当初から3人をサポートした
市地域おこし協力隊の高橋伸一さん
(54)は子どもたちが輝けば、島も輝
くとし「大人の支えも受けながら継
続していければ」と望む。山中さん
は「景色やレモン、行事など興居島
のいいところはたくさんある。みん
なでその良さを広めていきたい」と
力を込めた。



興居島小学校の教室からは海が望め
る—2025年12月中旬、松山市泊町

外から通学 移住も増

人口は20年で半減

興居島は高浜港からフェリーで約
10分。推計人口は755人(202
5年12月1日現在)で、この20年
で半減した。かんきつ栽培や漁業が主
な産業だ。

興居島小学校は、少子化などの影
響で由良小と泊小を統合し、09年4
月に開校。興居島中学校と同じ敷地
内にあるため合同授業や交流授業な
ど連携した教育を推進する。

05年度以降、統合前の2校の時
から松山市全域を対象に児童生徒を募
集。25年12月1日現在、小学校は24
人中11人、中学校は23人中17人が島
外からフェリーで通学している。

近年は移住者も増え、島内にさま
ざまな施設がオープン。ゲストハウ
スが点在するほか、由良港近くでは、
弁当店、うどん店、コーヒー店、ク
ラフトビル醸造所、コワーキング
施設、総合観光施設などがある。泊
港付近でもテイクアウトの飲食店・
休憩所が完成した。各港近くにレン
タサイクルの貸出所もあり、島内を
周遊できる。



「いごしま島ごとこども祭り」の運営に携わった島の子どもら
—2025年11月下旬、松山市由良町